

# IRCAブリーフィングノート： ISO/FDIS 22301:2012



**IRCA**

INTERNATIONAL  
REGISTER OF  
CERTIFICATED  
AUDITORS

# IRCAブリーフィングノート:ISO/FDIS 22301:2012 – 社会セキュリティ – 事業継続マネジメントシステム – 要求事項

## 序文

国際審査員登録機関 (IRCA) は、ISO/FDIS 22301:2012 に対するIRCAの理解について、IRCA登録審査員、IRCA認定トレーニング機関及びその他の利害関係者の皆様とコミュニケーションを図るため、このブリーフィングノートを作成致しました。

本ブリーフィングノートの内容は、善意によりIRCAの見解をご提供するものです。従って、営利目的での複製や使用はご遠慮下さい。また、IRCA登録審査員及びIRCA認定トレーニング機関の皆様は、ISO 22301:2012発行時にはすでに規格に精通している状態であることが求められます。

2012年2月1日、各国国家標準化機関向けにFDISが発行

2012年5月、ISO 22301:2012が発行予定

世界中で急速に事業継続マネジメントシステムへの関心が高まっていることを受け、ISOはISO/TC 223社会セキュリティとして知られる専門委員会を通じ、ISO 22301; 社会セキュリティ – 事業継続マネジメントシステム – 要求事項を開発しています。この規格は、認証機関がクライアントに第三者認証を提供するための仕様規格です。また、ISO 22301は、ISO 22300 – 用語、及びISO 22313 – 指針を含む、より幅広い社会セキュリティ – 事業継続マネジメントシステムシリーズ文書の一部です。

ここ数年、多くの国家及び地域で事業継続規格が作成されており、それらのうち最も特質すべきはBS 25999-1:2006パート1 – 実践規範及びBS 25999-2:2007パート2 – 仕様です。専門委員会のメンバーである事業継続の専門家及び関連機関はパート2「仕様」を信頼の置けるものとして事業継続マネジメントシステム要求事項の開発に採用するなど、他規格よりも一歩先を進んでいます。従って、この英国規格がISO社会セキュリティシリーズ規格の開発において重要な役割を果たしているというのも不思議なことではありません。

## ISO FDIS 22301:2012の内容のまとめ

### 概要

現在、ISOは全てのISOマネジメントシステム規格に適した上位構造及び文章の標準化に取り組んでいます。これは、複数のマネジメントシステムの実施を望んでいるにも関わらず、これまでマネジメントシステムの基本的な要素でありながら、規格ごとに異なる用語や要求事項に直面してきたかもしれない組織の支援を特に意図した取り組みです。特筆すべきは以下のような移行です。

- マネジメントシステムへのトップマネジメントのリーダーシップをさらに実証しなければならない
- 予防処置は「リスク及び機会を取り扱うための措置」に変更され、以前の予防処置（計画段階）に比べ、マネジメントシステムの開発の初期段階を取り上げている

- マネジメントシステムに関連する内部及び外部コミュニケーションの仕様及び要求事項が増加している
- パフォーマンス評価が強調されている

ISO 22301はこのようなフォーマットで発行される初の「新たな」ISOマネジメントシステム規格となり、これから新たに開発される規格や既存のISO規格の改訂版をけん引するものとなるであろうと予想されています。本ブリーフィングノート発行時点で未だ開発段階であるこの文書は、ISOガイド83と呼ばれており、2012年中の発行が予定されています。

BCM専門家や業界の関連機関が認識しているように、事業継続マネジメントの中心要素を変更しなければならない理由はこれまで存在しませんでした。ISO 22301には、計画への積極的なアプローチ、組織のリスクへの姿勢の考慮、そして主要なステークホルダーのニーズ及び期待のみならず組織の戦略的目標との明確なリンクの実証といったBCMの基本的な側面のいくつかを再度強調するような要素が存在しています。

社会セキュリティへのアプローチを反映するため、いくつかの新たな用語も導入されています。ISO 22301が発行された際には、ISO 22300の用語にも精通していなければならないでしょう。

## 詳細のレビュー

用語及び定義の中には事業マネジメントシステムに今回初めて含められたものもありますが、定義の中にはISO規格用に改訂されたものもあります。以下の用語に注意し、定義の変更による組織への影響について考慮するようにして下さい。

- 監査
- 事業継続計画
- 事業継続プログラム
- 是正処置
- 利害関係者
- 最大許容停止 (MAO)
- 最大許容停止時間 (MTPD)
- 最大事業継続目標 (MBCO)
- モニタリング
- アウトソース
- パフォーマンス
- 製品及びサービス
- 目標復旧地点 (RPO)
- トップマネジメント

## 組織の状況

組織は自らの存在理由についての見解及び理解、そしてそれがどのようにステークホルダーのニーズ及び期待と整合しているかを実証しなければなりません。これにより、組織の事業継続方針及び目的、そして組織の事業リスク及びリスクが及ぼす影響をどのように考慮するかを決定します。

BCMSの適切な適用範囲を考慮し、中心となる目的及びステークホルダーの要求事項とのリンクへの証拠を明確にしなければなりません。

## リーダーシップ

トップマネジメントの責任及びコミットメントは長年にわたり、マネジメントシステム規格の特徴とされてきました。ISO 22301ではこれがさらに明確な形で再度強調されており、コミットメントの実証が必須となっています（戦略的方向性から継続的改善の指示及び支援まで、10個の要求事項のうち2つ）。方針及び目的、役割及び責任を策定するという現在の要求事項と同様に、今やトップマネジメントがリスクの許容基準を規定し、BCMSのパフォーマンスが内部監査及びマネジメントレビューを通じて見直されることを確実にするための試験の実施及び責任の負担に積極的に関与することが求められているのです。

## 計画策定

組織の状況を十分に理解した後、事業へのリスク及び機会を取り扱うための計画活動を導入します（以前まではこの活動は予防処置に組み込まれていました）。この積極的なアプローチが適切に実施されたならば、BCM目的を首尾よく達成し、改善の機会を実現するための計画に焦点を当てることで後の是正処置の必要性が減るでしょう。BC目的のオーナーシップを割り当て、それら目的を達成するための明確な方向性について合意します。

## 支援

組織は、BCMSへの十分かつ適切な資源が利用可能であることを確実にする責任があります（一般的にトップマネジメントを通じて認識される）。適切性は力量分析を通じて決定されることが多く、これはISO 17021:2011の要求事項が変更されたことにより、認定機関からも認証機関からも注目され続けている領域です。

組織はBCMSのコミュニケーションについて、内部及び外部両方の側面を考慮しなければなりません。これにはコミュニケーションの方法及びタイミング、そしてその内容が含まれていなければなりません。これは、適切なBCMS計画が必要であることを明確に示しています。

BCMS文書の要求事項については、作成、修正、文書管理を含め、通常のマネジメントシステム要求事項に沿ったものとなっています。

## 運営

BCMS計画段階の一部としてリスク及び機会を取り扱うための活動を考慮した後、組織は自らの事業継続マネジメント要求事項の運営を計画、管理することになります。この段階では、以下の事項が最も重要です。

- 事業影響分析（BIA）を実施するための方法及び文書化されたプロセス

- リスクアセスメントを実施するための体系的な方法及び文書化されたプロセス
- 事業のうち最も重要な活動を守り、事業が停止した場合の再開を確実にするための事業継続戦略の選定方法。資源の要求事項もこのプロセスに含まれます。
- 優先すべき活動及びその依存性を維持するために必要な事業継続手順及び計画。ISO 22301では、インシデント、インシデントについての早期コミュニケーション、インシデントの定期的な監視について、他のBCマネジメントシステム規格でこれまで述べられてきたよりもさらに強調して規定しています。また、組織がどのように一時的な状態から（適切な場合は）「通常」の状態に活動を復旧するかを考慮するための要求事項もあります。
- BCM取り組みの有効性を実証するためのテストの実施

## パフォーマンス評価

全てのマネジメントシステム規格と同様、達成事項について振り返る必要があります。ISO 22301でも、この分析について評価を実施し、組織として結論を出すことを要求しています。

（組織が選択した）パフォーマンス基準は組織のニーズに適したものでなければなりません。これはマネジメントシステム要求事項としては今回新たに導入されたものですが、組織は既に一定の基準を設けている可能性が高く、この要求事項をBCMSパフォーマンスに適用することも可能でしょう。

BCMSのパフォーマンスを見直す主要な方法、及びBCMSの継続的改善のためのツールとして内部監査及びマネジメントレビューを継続して実施します。

## IRCA認定トレーニングコースへの影響

IRCAは2012年に規格が発行され次第、速やかにトレーニングコース基準を発行する予定です。

まとめると、トレーニング機関に要求される事項は以下の通りです。

- マネジメントシステム規格の標準化方法、及び標準化がマネジメントシステムの実施及び維持に与える影響に関し、（計画されている）変更について受講者に説明する
- 事業継続マネジメントの一般的な概説及びマネジメントシステムのPDCAサイクルにおける位置づけに関する説明を受講者に提供する
- 事業マネジメントシステムのサイクルの各要素をISO 22301規格に記述されている通りに、またBCMのライフサイクルをBS 25999パート1の冒頭に記述されている通りに明確に説明する。
- BCMへの認識を組織全体に展開する方法を明確にし、その有効性を判断する必要がある場合は受講者の期待に対応する。

## IRCA登録審査員への影響は？

本規格に照らした審査の実施に先立ち、審査員はISO 22301の力量を実証しなければならないでしょう。この力量は、適切なトレーニングコースの合格修了、またはISO 22301の知識及び審査状況における知識の適用の両方を取り扱っている、他の力量開発活動を修了することで実証することができます。

認証機関に所属しているBCM審査員にとって、ISO 22301の力量の証拠はISO 17021:2011要求事項を満たすうえで特に重要なものとなるでしょう。認証機関の審査員に対しては、審査のアウトプットの評価を通じた審査員のパフォーマンスの定期的な監視が審査員の力量評価の項目に含まれる可能性があります。

IRCAは、ISO 22301:2012が発行されBS 25999からISO 22301への移行の調整が確立された時点で、IRCA登録BCMS審査員の皆様のCPDをサポートすべく、より詳細なテクニカルレビューを発行する予定です。

#### IRCA 審査員登録基準の変更は？

現在の登録要求事項として、申請者にはIRCA認定トレーニングコースの合格修了、関連する実務経験の最低年数を満たすこと、最低件数の審査経験を満たすこと（そのうち少なくとも一件は現在主任審査員として登録している審査員の監督下で実施したものであること）が求められています。IRCAはBCMS内部監査員補及びBCMS内部監査員の実務経験要求事項を「1年間のBCM経験」へと改訂する予定です。これは、内部監査員補及び内部監査員への申請者にはより現実に即した要求事項が必要であるというIRCAの考えを反映したものです。その他の要求事項に関しては、変更の予定はありません。

© Copyright IRCA - 2012

---

#### International Register of Certificated Auditors (IRCA)

2nd Floor North  
Chancery Exchange  
10 Furnival Street  
London EC4A 1AB  
United Kingdom

**Email:** [irca@irca.org](mailto:irca@irca.org)

**Tel:** +44 (0) 20 7245 6833

**Fax:** +44 (0) 20 7245 6755

